

くによしじょう し かんれん い せき 17. 国吉城址関連遺跡

所在地：三方郡美浜町佐柿地係
調査原因：国吉城址史跡公園整備事業
調査期間：平成30年7月18日～12月21日
調査主体：美浜町教育委員会
調査面積：100 m²
時代：中世末～江戸時代初期



位置図(S=1/50,000)

調査の概要 美浜町では、国吉城址とその周辺遺跡群を含む歴史的景観の保存整備を図り、史跡公園として活用するため、平成12年度より確認調査を実施しています。

平成30年度第19次調査は、前年度に引き続いて山城部本丸跡北西帯曲輪段調査区の詳細調査と、佐柿城下准藩士屋敷跡石垣の確認調査を行いました。ここでは、国吉城址に関する成果を報告します。

遺構 今年度調査のうち、北西帯曲輪下段(5T下段)は、昨年度に6Tから続く直線石垣の繋がりを確認しましたが、石垣基礎部は多量の拳大程度の石材に覆われ、検出されませんでした。

今次調査では、その基礎部の様相確認のため、拳大石材層の一部をさらに深く掘り下げましたが、石材層は上層石垣面直下から中に大きく入り込んでいて、石垣は埋まっていませんでした。土層断面で確認する限り、石垣下の石材層上面は平坦面を形成しており、30 cmほど張り出していました。このことから、昨年度調査時の推定通り、石垣基礎部はこの拳大石材を盛った石山がそうであると結論付けました。

遺物 極めて少量で、天目茶碗片と甕片が出土しました。

まとめ これまで確認された国吉城址の石垣と大きく築造様相が異なるこの石垣が、結果的にどうしてこのような様相となったのかは不明ですが、昨年度にも指摘したように、天正10年(1582)の対越前用の臨時的改修の結果か、あるいは豊臣大名木村常陸介による石垣化段階での軟弱地盤強化、または天正大地震後の改修痕跡等の可能性も考えられます。



5T下段 石垣基礎石山断割状況
(西より)

(大野康弘)